

山行報告



■穴栗50山 城山(458m)と東山(1015m)

- 日 程：10月18日(水)
- 参加者：L上田 SL佐々木 兼澤 狩集 田中(美) 苦瓜 松本 和田

- 行動記録：城山登山口9:40～城門(9:42着)9:45発～城山山頂(9:50着)10:00発～登山口(10:15着)～東山温泉駐車場10:55～東尾根口11:05～11:07～東尾根登山口(11:17着)11:20発～展望休憩所(11:42着)11:47発～東山山頂(12:25着)12:55発～登山口(13:35着)13:38発～駐車場(14:00着)

◆◆穴栗50山の48番目、25番目を歩く

和田

この頃雨模様の日が多く、そのためわざわざ上田さんから前日に「明日は山行実施」のメールがとどいた。今日の予報は、午前は曇りで夕方には雨に遭うかもわからないという予報だった。

姫路じばさんビル前で上田車に乗せてもらった。8時ちょうどに佐々木車が到着し出発。天気は雲は多いが日差しもある。途中道の駅“播磨一の宮”にトイレ休憩に立ち寄った。

最初の目的地は城山と書いて“じょうやま”と読む波賀城のあった山城跡である。小山の頂上付近の駐車場に到着。“穴栗50山48城山”と書いたポールがある。上田さんが「穴栗で高い方から48番目の山や」と、説明。ポールの48という数字にこういう意味があったとは知らなかった。標高は458mである。空は曇ってきたが、晴れていれば散策向きの公園という雰囲気である。外観が黒の城を模した小さな建物があつた。ここからは眼下に街並みがよくみえた。

20年前に整備されたという案内板がある。約1時間の散策を終え次の山へ出発。

次の目標は東山である。フォレストステーションの看板の所から右折して山に入って行った。途中で上田さんが「おかしい？通り過ぎたかな？」とつぶやいた。Uターンしたら案内看板があつた。そこからはすぐフォレストステーションについた。駐車場に車を止め、トイレ、ストレッチ後登山開始。初めは舗装道路を登っていく。この時、佐々木さんが上田さんに、「計画書に感想文担当が書かれていないですよ」と、言った。「ほんまやな」と、上田さんはとぼけている。私は山行の直前に参加申し込みをしたためか任務が割り振られていなかった。私もそれにはきづいていたが、あえて訊かなかった。案の定私になった。

今日のルートは尾根コースである。上田さんは快調に歩いていく。こちらは少し息がきれてきたがついていけるスピードである。上田さんのすぐ後ろは狩集さん、その後が私、その後が



松本さん。私は最近、みんなの脚を引っ張ることが多いため、Lの直後かその後ろかである。

いつの間にか林の中に入って尾根道を歩いている。結構歩いたがなかなか頂上が現れない。

昔、兵庫50山をみて1人で来たことがあるが、もっと近かったように思う。いつの間にか、狩集さんのストックが私のものと同じなのが判り、松本さんが行動記録担当だとわかってきた。

やっと見覚えのある展望台が現れた。ここだけは見通しがきく場所になっている。空は曇って、風もあり空気も冷たい。弁当タイムである。馬酔木の影に座ると風が気にならない。兼澤さんと一緒に座った。兼澤さんはかつてワンゲルにいたとのことで山のことは詳しい。女性グループは別の馬酔木のそばでかたまっている。寒空であるが、ほっとする時間である。

ほどなく下山号令。下りは別ルートである。早い。直滑降のイメージである。一気に別の登山口に降りた。ストレッチそして入浴。その後は苦瓜さんより駐車場で立っての会計報告。帰路につき、道の駅“播磨一の宮”でトイレ、買い物をし帰った。



■ススキの大河内高原(砥峰⇒峰山)へ 秋の高原を歩きます

- 日 程：10月21日(土)
- 参加者：La 須増 SLa 関山 大野 木下 黒本 田中(由) 平石 舩賀 森下 矢根
Lb 森本 SLb 待場 内海 乙坂 砂川(美) 田中(重) 土屋 西川 山本(清)
山本(正樹)

- 行動記録：山電高砂北6:30発-JR宝殿駅北(6:45着)6:50発-善防公民館7:20発-峰山高原(8:30着・ストレッチ)8:50発~砥峰高原展望台(10:50着)11:00発~砥峰自然交流館(11:30着・昼食)12:30発-ホテルモンテローザ(13:00着・日帰り入浴)14:00発-善防公民館-JR宝殿駅北-山電高砂駅北(16:00頃着)

◆◆すすきの高原を歩く

平石

今日は久々のマイクロバスでの山行です。私は、バスでの山行が大好きです。善防で待っていると、バスは早朝でスムーズに走れたのか予定より早く来ました。6人全員早めに来ていたので7時15分、予定より15分早く出発です。前もってリーダーから「少々の雨だったら決行します。」とメールがあり「最悪、砥峰のすすきを見て温泉だけになるかも・・・」とのことでした。「それでもOKです。楽しみにしています。」



車中では、リーダーが大河内高原のチラシを配布し、地図を見ながら今日のコースの説明をして下さいました。ほぼ雨の予報だったのでコースを少しカットして晴晴山には登らずに、峰山~砥峰高原展望台へ歩くことになりました。峰山からのハイキングコースは落ち葉で埋めつくされていて歩きやすい山道でとても良かったです。長く続く栗の木のトンネルを抜けると両サイドにはシダの群生、この辺りから霧雨が・・・。

「どうか、このままもう少し降らないでもって欲しい!!」と願いながら歩いていくとやがて舗装された一般道にでてきました。ここまでは良かったけれど、ここからが大変でした。スキー場建設のため工事中らしく道はドロドロで足を

取られそうになりながらの泥道が長く続きました。

でも、大した雨にもあわずに砥峰高原までたどりつきました。少し早い昼食を砥峰自然交流館で済ませ、一路モンテローザへ向かいます。幸いにもちょうどこの頃から雨が本格的に降ってきました。私たちはありがたいことに温泉に入って帰るだけです。すすきは少し早いようでしたが、楽しい山行でした。リーダーの決断で峰山～砥峰へ歩くことができ、本当に良かったです。ありがとうございました。また、来年もよろしくお願いします。



■台湾・玉山(3952m) アルプ海外トレッキング

- 日程：10月21日(土)～24日(火)
- 参加者：L 砂川(延) SL 三木(悦) 大谷 尾越 和田
- 行動記録：

(21日) 関西空港(8:15着)10:55発—桃園空港(12:55着)14:35発—東埔温泉(18:40着・泊)

(22日) 東埔温泉 7:20 発—上東埔駐車場(8:45着)9:00 発～排雲管理事務所(9:10着・入山手続)9:40 発—塔塔加鞍部登山口(9:55着)10:05 発～孟禄亭休憩所(11:05着)11:15 発～前峰登山口(11:55着)12:05 発～西峰下展望台(13:30着・昼食)14:20 発～排雲山荘(17:30着・泊)

(23日) 排雲山荘 3:00 発～玉山山頂(5:55着)6:30 発～排雲山荘(7:50着・朝食)8:50 発～西峰下展望台(10:45着)10:55 発～前峰登山口(11:25着)11:35 発～孟禄亭休憩所(12:40着)12:50 発～塔塔加鞍部登山口(13:40着)13:55 発—上東埔駐車場(14:00着・昼食)14:25 発—東埔温泉(16:00着・夕食)19:00 発—台北(22:50着・泊)

(24日) ホテル 8:40 発—市内観光・昼食—桃園空港(14:10着)16:10 発—関西空港(19:55着)

◆◆台湾の山 玉山3952m に登る

尾越

台湾で1番高く1番登り易い山「玉山」、九州と同じくらいの面積の台湾には3000m級の山が200座以上あるそうで驚きです。3952mのてっぺんから3000mの山々を見下ろせるのかと思うと今からドキドキしてきます。

日本が占拠していた時は新高山と呼ばれ「ニイタカヤマノボレー二〇八」の言葉は日本人の心の奥底に残るつらく悲しい言葉ですが、今の台湾はそれを感じさせない明るい街、特に台湾人の垣根のない暖かい人柄は、山でも出会う人と必ず親しく声を掛け合いすれ違う最後まで話しているので、最初は皆知り合いかと思うほどでした。

桃園空港に出迎えてくれたのは、100回以上玉山に登った台湾人ガイドの郭さん、お花摘みの時もどこまでも見守ってくれるもう1人のガイドの阿舎さん、台湾にきて20年の日本語が危ない通訳の熊谷さんの3名でした。25人乗りのバス(骨董品に近い?)で高速道路を東埔温泉まで、4時間の道のりをこれからの行程の説明を聞き車窓を眺めていましたが、一般道に出たとたん



バスの本性が現れガタガタと揺れながら東埔温泉帝綸ホテルへ、お陰で乗り物酔いになりせっかくの夕飯に食欲がなく人数にしては多すぎるお料理は半分近く残すことになりました。

2日目 今日明日も良いお天気のように期待は膨らみます。バスで登山口に向かい、排雲管理事務所で入山許可のパスポートチェック、シャトルバスで塔塔加登山口2610mへ。



自然保護から排雲山荘で泊まれる人数約100名に制限され、事前に入山許可が必要です。

10時過ぎ、歩き初めるとなんとなく日本の山と似ていると思ったらススキ、ホトトギス、ナデシコ等の草花が道端に咲き、今夜泊まる排雲山荘までよく整備された橋を82か所渡り、500m毎の標識を見ながら高山病の予防のため呼吸を意識してゆっくり歩き、800mを登ります。孟禄亭2838m近くのバイオトイレを借り、白木林休憩亭3096mで遅い昼食、高山病のせい気分が悪く食欲がなかったのですが、郭さんの温かい

コーヒー、ウーロン茶のサービスで一気に気分が回復し、玉山主峰も目の前に見えて気持ちが軽くなる。人懐っこい鳥がすぐそばでやってくる。平坦な道も標高が高く酸素が薄いのでハハッと酸素を吸うため息を吐くことに集中する。遠くからも見える一枚岩の大峭壁には海中生物の化石があり昔、台湾の山脈が海の中だったことを知ることができる。

排雲山荘3402mは3年前に建て替えられ水洗トイレ、食事はポーターさんが担いで上げるので食べ残さない、但しスープは必ず2～3杯は飲むこと、食後は郭さんが背負ってきてくれたアップルサイダーを皆で頂き、水分補給と糖分で疲れをとり血中酸素を一人ずつ測定し、皆高度順応に合格！明日のお天気も良くご来光を期待し2時起床のため早めに休む。この高所ではせいぜい4時間寝むれたら良いそうで、そう考えると気が楽になり何度も目が覚めるがこんなものかなと思えた。

3日目 2時起床2時半おかゆの朝食と甘いお茶を美味しく頂き暗い中ヘッドランプで5時47分の日の出を楽しみに3時出発！思ったより暖かい。

立ち止まる度きれいな星空を見上げ、ザレ場で歩きにくいクサリもあり急な斜面を滑らないようジグザグに登り日の出前に頂上につく。

玉山主峰3952mここに居られる幸せに感謝してご来光を待つ。冷えるが風もなく穏やかで金色に染まる山々と雲海から3000m級の山々が頭を突き出している景色は素晴らしい眺めでした。お天気の良い時に見られる陰玉山も見ることができました。

排雲山荘に戻ると2度目の朝食はうどんに似た麺でゴマ油、鷹の爪が良くきいて意外とあっさりとしたスープで美味しかったです。

塔塔加鞍部登山口までの長い道のりを何人かの大きな荷物を背負ったポーターさんとすれ違いながらまた82の橋を渡り早朝からの行動で眠いのを頑張って歩きます。

東埔温泉帝綸ホテルに戻り入浴、下山中に熊谷さんをお願いしていたお茶の間屋さんに案内して頂き高山茶をお土産に買い、夕食はお鍋と食べきれないお料理を頂き台北市のホテルに移動、23時前にホテルに到着、今日の長い1日が終わります。



4日目 午前中市内観光のガイド黄さんの案内で、中正記念堂、龍山寺、他予定外の占い横丁、足裏マッサージを勧められ、昼食に本格飲茶で満足して桃園空港まで送ってもらう。

台湾の山 歴史、政治、宗教にふれた4日間でした。

半年も前から旅行社と話しを進めてくれた三木さん、参加メンバーの皆さんありがとうございました。ガイドの郭さん阿舎さん「谢谢」、通訳の熊谷さん「あなたの日本語は楽しかった☺」山の仲間は良いですね、思いを新たにした台湾玉山でした。



■久住山・由布岳登山 九州の山の紅葉を楽しむ

- 日 程：10月27日(金・夜)～30日(月)
- 参加者：La 藤本 SLa 田中(重) 田中(由) 山本(清)
Lb 赤木 SLb 乙坂 田中(美) 村上

- 行動記録：牧ノ戸登山口 10:00 発～沓掛山(10:25 着)10:30 発～扇ヶ鼻分岐(11:15 着)11:20 発～久住分れ避難小屋(11:55 着)12:10 発～久住山(12:40 着)12:45 発～牧ノ戸登山口(14:55 着)

◆◆1日目：久住山 九州の山の紅葉を楽しみました 乙坂

心配した台風21号は日本列島に大きな被害をもたらしましたがやっと過ぎ去って行きました。来週の山行は快晴だと誰もが思ったと思います。

そう思ったのも束の間でした、なんと2日後に台風22号が発生し、週末に九州に近づくと云っている。うそでしょ～?! 神戸港から「さんふらわ～」に乗り込み出発!

用意されていた部屋は半個室のプライベートベットと言ってカプセルホテルのような個室でした。快適!

大分港についた時、空には厚い雲がどんより、小雨がパラパラ。レンタカーに乗り込み、登山口を目指しました。途中のやまなみハイウェイは気持ちのいいドライブでした。晴れていたら最高でしょう。登山口に到着した時、他のグループも雨の登山準備をしていましたので、我々も迷わず準備。



周りの山が見渡せる高さまで登った時、紅葉の大パノラマが広がっていてとても綺麗でした。

(この感動を誰かに伝えたいけどいい言葉が見つかりません、皆さん、ぜひ九州の山の紅葉

を見に来てください!)山頂付近は大きな石がゴロゴロとしていて、強風で吹き荒れていました。山歩きを始めて、初めて“飛ばされそう”と思いました、それ程の強風です。不思議なんです、山頂付近だけでした、この強風。

今回の山行を体験し、ザックの中と登山靴が見事に濡れました。今後のパッキングの方法とこまめな防水スプレーの使用をもっと考えなければならないと思いました。

下山後、売店で「いきなり団子」を買って、お腹を満たしました。大分の郷土料理は大好き

なんです、美味しかった。

その日の宿は素泊まりでも温泉があり、皆様と楽しく簡単蒸し料理をして学生気分でも楽しかった。こんな体験が出来たのはリーダーの藤本さんのおかげです、ありがとうございます。B班のリーダーの赤木様、皆様、ご一緒出来てとても楽しかったです、ありがとうございます。

◆◆温泉三昧でリフレッシュ

田中(重)

29日(日)昨日からの雨が止むことなく降り続き由布岳山行は諦める事となる。

これだけ降ると山行中止も諦めがつく。藤本Lの決断で温泉紀行に変更する事に・・・黒川温泉・由布院温泉巡りだ。

折角なので昨夜の鉄輪温泉から紹介しましょう。地獄蒸しの宿に近い市営浴場「熱の湯」は簡素な建物だが入湯料が無料なのが有難い・・・。洗い場も無くシンプルな浴槽だが名の如く湯船に足を入れるなり<ビックリ>温め好きな私には熱すぎー！！藤本さん赤木さんは平気な様子、それでも皮膚は見る見る赤くなっていた。因みに朝には加水され温め「適温」？らしい。

9時過ぎに宿を出発。雨の中以前からは是非行きたかった黒川温泉へ向かう・・・約2時間程のドライブで目的地につき地蔵寺傍の「地蔵湯」へ。此处も無人で入湯料を料金投入口に入れると扉が開き入ることが出来た・・・。浴槽は下湯と上湯に分かれて初めは温めの下湯から、そして上湯に入るよう説明書きがされていた。適温でゆっくり芯から温まれた。

身体がほっこりすると空腹感を覚え、自然薯料理の囲炉裏のある落ち着いた「やまたけ」で美味しいランチで胃も満たされました。

由布院につく頃には雨も上がり、金鱗湖が樹木越しに見える「下ん湯」へ・・・内、外2層に分かれた混浴風呂だが幸いにも先客が男性だったので我々男性3人は最後の温泉を楽しんだ。女性陣はお茶会で盛り上がったようです。

藤本Lの山だけではなく穴場温泉の案内で山行&温泉めぐりを満喫させて頂きました・・・ありがとうございます。藤本D r 赤木D r 長時間の運転お疲れ様でした。



【黒川温泉かやぶきの休憩所】
ひのき舎



■モデルと一緒に高御位山縦走

- 日 程：11月3日(金・祝)
- 参加者：CL 砂川(延) L 森本 SL 須増 乙坂 黒本 関山 田中(重) 土井 藤原(浩) 舛賀

- 行動記録：成井登山口 8:00 発～高御位山(8:50 着)9:15 発～馬の背分岐(10:15 着)10:20 発～市ノ池公園(10:40 着)10:45 発～長尾天満宮(11:40 着)11:45 発～縦走路分岐(12:00 着)12:20 発～小高御位山(13:00 着)13:10 発～成井登山口(13:30 着)

◆◆モデルと一緒に高御位山縦走

乙坂

家を出発したのが遅かったので集合場所の成井登山口へはギリギリの到着となりました。

(モデルよりも遅れてしまった)これがイケなかったのかなぁ・・・。

この登山道、昔と比べ随分階段が整備されたなぁと言う印象でした。

今回、長谷川さんというこの登山道の保守ボランティアをされている方が山頂まで同行され、色々なエピソードを語ってくれました。朝3時から登る登山者が居たり、出勤前に一登りだとか、山道を花壇のように花を植えたり、また登山道保守の話では、30キロほどの石やセメントを運ぶとの事。

山頂につく頃、汗が噴き出てポタポタと流れ落ちました。モデルを見ると余り息も上がっておらず、汗もかいていない…さすが若いモデル、と思いました。



高御位神社でモデルと別れ、私たちは更に歩きました。馬の背を降り、キャンプ場への近道を歩く。

そして、清掃登山の道を進み途中経政神社へと歩を進めました。私は草むらを降りる途中、滑ってしまい足を捻ってしまいました。「ぐうききつ」と何ともいい音が聞こえました。

あぁしまったなぁ・・・。その後の周りの方々の対応は早かった。「大丈夫?!」と声が掛かり、砂川会長が三角巾で捻った足を固定してくださり、安

田さんからストック2本が渡され、ザックはどなたかが持って下さった。

皆様には大変ご迷惑をお掛けし、長尾登山口まで共に降りて頂き、この後どうするか…成井登山口まではとても遠い、皆さんが山行を終えられるのも2～3時間は掛かる。結局、砂川会長がこの近辺に住まわれている方々に連絡を取って下さり、和田さんが迎えに来てくださいました。(祝日のお休みの中本当に申し訳ございませんでした!)

今回高御位山遊会の素晴らしい連携に心打たれました。私も何かあれば皆様の手助けが出来るよう、心に余裕を持たねばならないなぁと思いました。本当にありがとうございました。

◆◆リーダー森本の追記文

砂川会長と乙坂さんに別れを告げた後、長尾天満宮からきつい坂道を上り、縦走路の鉄塔で昼食となった。昼食後、小高御位山への道が分からず右往左往してようやく山道を発見、大きな岩がそそり立つ小高御位山山頂で高御位山をバックに記念撮影のつもりが、全景が入らずカメラマンが四苦八苦して何とか終了した。ここから成井登山口までが急な岩場の下り道で慎重に歩を進め無事ゴールに到着。お疲れ様でした。



■明神山(姫路市夢前町)

- 日 程：11月4日(土)
- 参加者：L和田 SL砂川(延) 笹木 島谷 西川 西口

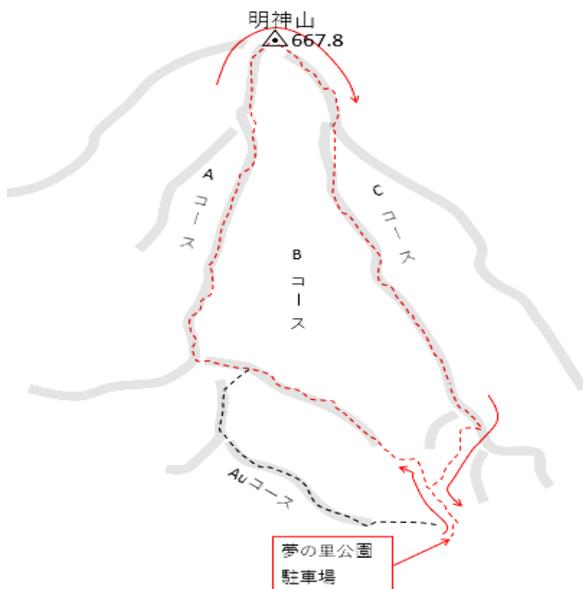
- 行動記録：夢の里公園駐車場(8:30着)8:50発～大黒岩(9:20着)～マンモスの背(9:27着)～AUコースとの合流点(9:35着)休憩後9:40発～西の丸(9:52着)～大熊の頭(10:00着)～夢展望岩(10:10着)～A・Bコース合流点(10:20着)～新展望岩(10:30着)～明神山頂上(11:00着・昼食)11:35発～地蔵岳(12:10着)～C4ポイント(12:35着)休憩後12:40発～観音岩(13:00着)～屏風岩(13:07着)～駐車場(13:40着)

◆◆ 岩が楽しい明神山

島谷

「明神山はヤマヒルが多いよ。」「靴下の中まで入ってくるから。」とよく耳にしておりましたが、この季節ならヒルの被害に遭うこともないだろうと参加しました。また、子ども達が小さかった頃に連れて登ったこともあり、郷愁の思いも強かったです。約1か月ぶりの山歩きで、日帰りとはいえ準備品を何度か見直し当日に備えました。

端正な形の山は、紅葉の盛り前ですが色とりどりにきれいでした。登山ルートはいくつかあり、往路は南西から山頂を目指すAコース、復路は南東へ向かうCコースです。台風の影響か、木切れと落ち葉が多くところどころ道が切り立ち、落ち葉の下の道をあてに出来ない山道でした。しかし晴天に恵まれ、乾いた落ち葉を踏むと気持ちよく音を立て、土の状態もひどく滑ることはなく歩きやすかったです。岩場が多くロープが張ってありますが、「基本はロープに頼らず、脚であがるよう」の指示を受け慎重に進みました。大岩には「マンモスの背」「くじらの背」、山頂近くは「気合坂」「がまん坂」、観音さまがお座りになったような「観音岩」等ネーミングもおもしろく、「名前をつけるの、楽しいやろな」と話しました。山頂からは遠くの山々が見



渡せ「この前登ったの、あれ」と互いに確認し、普段の山行の2倍ぐらいゆっくりと景色を堪能しました。砂川会長から「高御位山がみえるから、あそこが妻鹿。官兵衛さんの国府山」と、ルンルン気分でおにぎりをほおばりました。下山時に通過した神元(かみもと)神社には大きな杉の木があり、見上げると青空にまっすぐと立っています。「頭に効きそうな名前の神社やな」と自虐的なN氏の発言が笑いをさそいました。

駐車場では朝と同じく黒ヤギさんと白黒ヤギさんの前でストレッチをおこない、里の館でお茶のお接待をうけ、楽しい山行を締めくくりました。



■西国街道を歩く いにしへの道を求め姫路まで

- 日 程：11月5日(日)
- 参加者：La 山本(正一) SLa 木村 内海 黒本 藤田 松本 矢根 吉村
Lb 澤田(律) SLb 上田 大谷 狩集 澤田(卓) 橋本(万) 開 待場

- 行動記録：土山駅(9:05)～東加古川駅(9:55)～加古川駅(11:05)～宝殿駅(12:35)～曾根駅(13:55)
～御着駅(15:15)～市川橋(16:05)～姫路駅(16:50)

◆◆古き旧道を訪ねて歩く

藤田

J R土山駅に参加予定の16名が集合した。天気も前日に続き快晴で暑くなりそうだ。軽くストレッチの後、予定どおり9時に出発。

駅から約300m北の平岡東小学校前まで歩く。ここが本日の西国街道のスタート地点である。すぐ南を平行して国道が通っているが、こちらは静かで車も少なく歩き易く思える。

西国街道とは帰宅後調べてみると、都から西の国々を総じて西国と呼び、特に九州に通じる街道を西国街道と称したようで、江戸時代には山陽道と称した。道筋には昔々の旧家が残っており同姓の表札が多く見受けられる。東加古川ではショッピングデパートの敷地内に街道が取り込まれている。さらに西に教信寺を過ぎしばらくして大きな五輪の塔が路傍にあり和泉式部の塔と呼ばれているが、何故この地にあるのか不思議である。

加古川の寺家町商店街も街道の一部である。加古川に近づくにつれて商店がまばらになって寂しくなってくる。出発から3時間過ぎ、丁度12時になっているので加古川大橋を渡ってから堤防で昼食をとった。ここで内海さんの説明で思いもよらないことを知った。川は西に流れていて橋は南北に懸っているのであった。今までの思い込みを恥じ入るばかりである。

昼食後J R宝殿駅へ向かう。ここで人数が14名になった。さらに西へ進み石の宝殿の一の鳥居と傍の山縣蟠桃が結婚記念に寄進した灯籠を見てJ R曾根駅を目指す。一息いれ次のJ R御着駅へ。この間は少し距離がある。御着に近づくと昔々の家並みが目立ってきて表札に「天川」が多く見られるようになった。橋にも天川があり、地名と姓が同じで歴史を感じる。

市川橋の手前で地元の方が最近、自宅前を歩く人をよく目にすると言っておられた。この道を訪ねて歩くのは我々だけではないようだ。



到着が予定よりかなり遅くなりそうなので姫路駅まで急いだ。朝9時にスタートして、随所で説明を聞きながら歩いてきたから時間も随分かかった。いつもは車で通り過ぎた所も、一步奥に入った路地裏とか、中には他人様の敷地内ではないか思うような所にも旧跡があった。

遠く古代から近世まで幅広く歴史を刻んできた町に私たちは住んでいる。発展と調和をはかりながら、この歴史を後の世に引き継いでもらいたいと思います。

沢山の資料を揃えて頂いたリーダーにお礼申し上げます。



■段ヶ峰(1103.4m) 女性委員会 紅葉と、稜線歩きを楽しもう

- 日 程：11月11日(土)
- 参加者：L澤田(律) SL待場 尾越 香川 垣内 狩集 中村 平石 藤原(千) 矢根

- 行動記録：姫路6:33発一生野(7:48着)一生野荘後登山口(8:00着)8:10発～達磨ガ峰(9:05着)9:15発～フトウガ峰(10:40着)11:00発～段ヶ峰山頂(11:40着)12:00発～フトウガ峰(13:35着)～達磨ガ峰(14:10着)14:15発～生野荘後登山口(15:05着)15:20発一生野駅(15:30着)16:25発一姫路駅(17:34着)

◆◆大好きな稜線歩き

香川

段ヶ峰＝稜線歩きを楽しめるという事で2ヵ月振りの山行参加を楽しみにしていました。播但線で生野駅まで行き、山行人数が10人の為タクシーとジャンボタクシーに分乗して10分弱の登山口に到着。心配されたお天気でしたが、青空が見られるようになりワクワクしてきました。

このコースは達磨ガ峰までの厳しい坂道を1時間ほど登れば穏やか尾根道になるという事で、初めからストックを使う事にしました。しかし長い登りはきつい。前の人に離されないように、1輪のリンドウに励まされ、必死で付いて行きました。熊鈴は軽やかに鳴っています。道を塞ぐ倒木もあったけど、視界が開けてきた辺りからススキの間を歩み気持ちが良い。そして1時間弱で達磨ガ峰に到着、行く手にフトウガ峰～段ヶ峰が見えてきたがかなり遠い。

空は次第に雲に覆われて、風もでてきた。10時半、フトウガ峰手前の大きな岩を風よけにして、少し早いランチタイムになりました。辺りは笹原でアセビが点在する。眼下の落葉樹はまだ少しだけ紅葉が残っていました。尾根歩きは開放感たっぷりでしたが、雨がパラパラと風も強く、冬近しと感じました。

途中でカッパを着たりし、宍粟50山、段ヶ峰山頂1103.4mに到着。もちろん360度の展望で、周りにも1000m級の山々が連なり迫力のある景色です。皆、満足の顔で集合写真に納まりました。あとは、来た道を休憩をいれながら、下って行きました。途中で尾根道を振り返り、よくもあんな遠くまで、歩いたものだと・・・お天気も良くなかったせいか誰とも合いませんでしたが、登山口近くで小さいリュックを背負った青年が急いで登ってきた。どこまで登るのかと聞くと、上までとの事、え～？これから～？老婆心ながら、暗くなるまでに下りて来られるのかな～。

15時30分 予定時刻より早く生野駅につくことが出来て、暖かい駅の待合室で近くのコンビニのコーヒーを飲みながらおしゃべりしていると、あっという間に時間が過ぎ帰途につきました。強い風の中でしたが、笹の草原、稜線歩きを堪能できました。次回はアセビの花の咲く春に行ってみたいものです。電車とタクシーの乗り継ぎもスムーズでリーダーさんに感謝、同行の皆様にも感謝です。



■ 2017年度 荒井中学校「トライやる野外活動」

- 実施期間：2017年11月6日(月)～10日(金)
- 受入生徒：男生徒ばかり9名

◆◆高砂市立荒井中学校トライやるウイークを取り組んで 砂川(延)

例年の日程で今年も全日程を受け入れ取り組みました。日程ごとに簡単に報告をしておきます。

★11月6日(月)荒井中学校図書室、午前9時～座学 サポート：砂川(延) 渡邊(俊)

自己紹介で始まり、生徒には、このトライやるウイークに取り組んだ理由を話してもらいました。いつもの事ですが、先輩からの推薦、山歩き、サイクリングに興味があったからなどが主な理由でした。

今年は1/25000地形図・加古川を全員に配り、日程ごとの活動内容について、説明と山歩き、サイクリングのコース確認を行いました。

教材として装備のあるシルバコンパスの使い方を説明し、明日からの山歩きの中で実際に使ってみることにしました。後、自転車の点検を行って昼前に終了としました。

★11月7日(火) 播州の山を歩く(1)高御位山縦走

サポート：上田 内海 大谷 澤田(律) 砂川(延) 関山

初めて山を歩く日です。荒井中学校へ午前9時に集合して、例年通り荒井中から法華山谷川の土手を魚橋までさかのぼり、碎石場を横切って古い登山道をたどり古い地名の魚橋山、北池山の尾根に取り付き高御位山を目指す。高御位山で弁当を食べ百間岩から鹿島神社に下山、バスの時間に合わないの、荒井中学校まで歩いて帰る。



★11月8日(水)サイクリング 県立志方七つ池公園へ サポート：大谷 砂川(延) 待場

高砂河川敷公園(文化会館裏)に午前9時集合し志方七つ池公園を目指し出発したが、雨が降り止まず、予定のコースをサイクリングは無理と判断した。ウエルネスセンターに退避して休憩を取り、生徒には「トライやる」の日記を書くように指示、弁当には少し早いので様子を見て平荘湖を一周して、またウエルネスに帰り昼食をとってから、朝の集合場所に帰り解散する。

結果的にはウエルネスで終わってしまった。

★11月9日(木)播州の山を歩く(2)石の宝殿から日笠山 サポート：内海 大谷 三木(悦)

播州の山を歩く2回目、荒井中学校から竜山はすぐ北に見えている。登山口は竜山町内にある神社から上がり、観瀾処(かんとうしょ)を通して竜山の頂上へ。石の宝殿・生石(おおしこ)神社に降りて、浮石を観察し日笠山へ向かうのがいつものコース。日笠山から牛谷に下山してJR曾根駅からじょうとんバスで荒井中学校へ帰った。これで、高御位山、竜山、日笠山と高砂市内にある主な山を一周することになる。

★11月10日(金)漕艇 加古川市漕艇センター

サポート：大谷 砂川(延) 砂川(美) 関山 待場 和田

生徒たちはサイクリングで集合場所も同じ、河川敷公園に集合して、加古川市漕艇センターに向かう。漕艇センターではナックルフォアを2艇かりて、ナックルフォアに取り組む。

漕艇センターのトレーニング設備でボートの漕ぎ方をレクチャーしてから川にボートを下し、漕ぎ出していった。いつものことですが、最初はなかなか上手くいかず苦勞するが、終わるころになるとやっとコツがつかめるようになっていた。

終了後は食堂でカレーライスをみんなで作り昼食をとり、生徒は日誌を仕上げ今年「荒井中学校トライやる」を、終了としました。